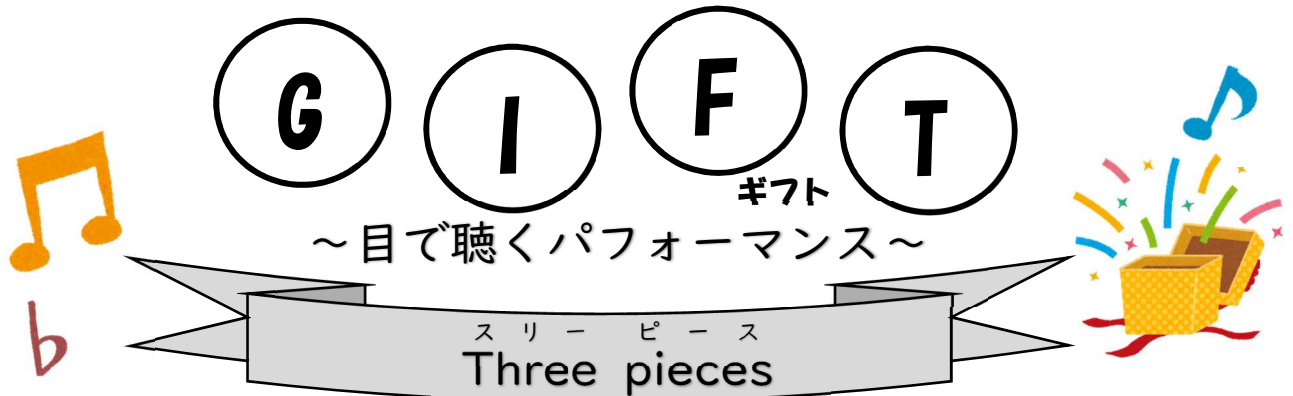


人権啓発ネットワーク大東機関誌 第18号 2020年8月

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

2020 ヒューマンコンサート 【2020年2月8日(土) サーティホール多目的小ホール】



開演前、客席正面最前列に陣取った方々は、二人のファンなのでしょう。手話で会話を交わしながら、とても楽しそうに待っておられました。表情豊かなそのご様子は、声はしないのにとともにぎやかでした。



スリーピースの二人、強力 ^{ゴウリキ} 翔 ^{カケル} (写真右:サイン・ツガ-※造語で、「手話で歌う人」

という意味)さんと、^{ヨッシ-}yossy (写真左:パフォーマー)さんが、満面の笑みで登場し、楽しいステージが始まりました。強力さんの伸びる歌声と、yossyさんの全身で表現する手話パフォーマンスは、美しいミュージカルのように圧巻

でした。弾けるような二人に、ステージが狭く見えます。ファンの方々も一緒に手話で歌います。私たちも、「ラ」の手話(→)を教えてもらい、一緒に「ラララ~♪」と踊るように歌いました。



強力さんは、駆け出しの頃は住道駅でストリート・ライブをしていました。そして、30 歳を目前に手話を覚えたそうです。安定した生活のために歌をやめようかと悩んだこともありました。が、あと一曲だけと「GIFT」を作りました。「あきらめずに続けていたら、必ず素晴らしい未来が開ける。」そんな想いのこもったこの曲さながらの強力さんのサイン・シンガー人生です。

yossy さんは、全く耳が聞こえません。自分の声も、観客の声援も聞こえません。拍手の代わりに、両手をキラキラと光るように振って、称賛を送ります。

2015 年に初めて一人でパフォーマンスをしたとき、曲の 2 番の出だしが分からず止まってしまったそうです。だから、客席最前列に、きっかけを手話で知らせるカウントマンが必要なのです。ステージ上の二人とカウントマンの合計三人で、パフォーマンスは完成します。

yossy さんは語ります。「かわいそうと思って欲しくないんです。同じ人間なんです。一人ではステージを作れないから、こんなに人の輪が広がりました。少しでも賛同してくれる人を増やしたいです。」と。

二人の願いは、車いすの方、目の見えない方、年齢や国籍…、みんな居心地が良い世の中にしたということ。できなくてしんどい…という人を無くしたい。だから、「どうやったらできるのか？」を考え、生み出し、ステージから発信していきます。これからも、字幕や DVD と、やりたいことの夢はふくらんでいきます。「誰も取り残されないライブ」のために。

客席、筆者の横には、お身内の方々が座っておられました。まるで漫才のような二人のかけ合いに笑い、また、しみじみと「あんなん言うようになったんやなあ。」と、成長の喜びをかみしめておられました。

あっという間にコンサートは終わり、とてもさわやかな気持ちで帰路につきました。私も手話を習って、皆さんと楽しく会話をしてみたいと思いました。これからも、スリーピースを応援し続けます。

(レポーターあき)



シリーズ —新型コロナウイルスと人権— その1

「密を避けることと密が必要なこと」

私は、学校の教員をしています。休校中とはいえ、久しぶりの登校日に子どもたちは笑顔を交わしながらも密を避けるため、「あっちいけ。」「近づくな。」と話しています。教員も「その男子、近づきすぎ。離れて、離れて。」「バラバラに登校するように。」などと指導しています。学校では、表面上ですが、今までと真逆のことを言い始めています。私たち教員は、「人と人が力を合わせ、自他協調の下、困難な社会を乗り越える力を身に付けさせるべく」教育活動を行っています。そのためには、困難な状況に際し、対話し、相談し、人を説得し、協同して改善策、打開策を見つけることが必須となります。「密」なしではそんなことはできません。この新型コロナウイルスの猛威の中、そんなことはきれいごとで、「ソーシャルディスタンスを取らねば命の危険がある。」という世論が支配的です。もちろん、現時点（令和2年8月）ではそのとおりです。外出自粛、臨時休校の措置は正しいと私は考えています。



また、報道によると、「もう、コロナ以前の社会に戻ることはないのではないか。」という人もいます。「あっち行け。」「近寄るな。」という世の中に「コロナ終息後」もなるのではないかとわずかも思ってしまう。そうでなくても、地域のつながりが弱まり、子どもたちのコミュニケーション力の低下が叫ばれている時代です。私たちは、幼いときから、おもちゃの奪い合いで鍛え合い



（「鍛え愛」と書きたいくらいです）、ちょっかいをかけては泣かし、泣かされ、いたずらが過ぎては先生や親に怒られ、公園ではまさに追っかけ合いをして、身体を使って育ってきました。そうやって育つものと確信してきました。そういった、人と人とのぶつかり合い、換言すれば「密」そのもののおかげで、成熟した大人になってきたように思います。

学校教育に話を戻せば、オンライン教育が万能かのような論があります。先生と児童・生徒が

パソコンの画面越しに対話授業をして効果がないとは言いません。言いたいのは、あくまでも超臨時的なことと言い切りたいのです。人間は「密」な関わりの中で、人間になっていくことを忘れてはいけないということを言いたいのです。配達物は玄関に置いておき、手渡さない。回覧板もウイルス感染の疑いがある。レジではマスク越し、ビニール越しの会話。それらが現時点では、最善の対策でしょう。「人と人が会話（相談）して諸事進めていくのは面倒だ。それを省略する最近のやりの方が、煩わしくもなく、コロナが収まってもそのままいこう。」となるのが怖くて仕方がないのです。

いじめのことで言うと、いじめる子ども、いじめられる子どもの関係だけではなく、もう一つ、周囲の子どもの存在が欠かせません。「周囲の子どもがいじめられている子にどう支援するか（どう密につながるか）、どうかかわっていくか、」これが極めて重要です。そこが問題の深刻度を左右します。

単純にはいきません。しかし、感染防止のための物理的距離をしっかりと取ることと、人間が成長するため、困難な状況を乗り越えるためには「密」が必要なこと、そのバランスの正しいあり方が、今問われているのではないのでしょうか。

（レポーターがんちゃん）

★ 会員募集

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。

人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。

会費等はありません。



NEW

Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、

Facebook ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！

（Facebook で「人権啓発ネットワーク大東」を検索！↑）



★ ヒューマンライター

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方

（ヒューマンライター）を募集します。

TEL：072-870-0441

FAX：072-872-2268